

令和6年度 第3回博物館協議会 (抄録)

日 時 令和7年2月5日(火) 午後1時30分～午後3時30分
場 所 安城市歴史博物館2階講座室
出席委員 高山 忠士 会長
加藤りせ子 副会長
松永 博司
荒井 信貴
市川とし子
平岩 政志
事務局 加藤 浩明 生涯学習部長
朝岡 一秀 文化振興課長
野上真由美 学芸係長
後藤麻里絵 主査
本部はる香 主事補
杉山 和良 主査
井上宗一郎 指定管理者
安祥文化のさと地域運営共同体総括責任者
石川 明良 指定管理者
エリアワン株式会社 取締役部長

次 第

- 1 あいさつ
- 2 協議事項
 - (1) 令和6年度開催済事業報告
 - (2) 令和7年度事業計画(案)
- 3 その他

協議事項

- (1) 令和6年度開催済事業報告

事務局	【令和6年度開催済事業報告について説明】
指定管理者	【令和6年度開催済事業報告について説明】
会長	事務局の説明が終わりました。質問等がございましたらお願いします。

委員	7 ページの地震と災難展の観覧者の動向と P R についてお聞きしたい。前半は展示テーマに関心がある層が来館し、会期後半は親子連れ等の年齢の低い層の観覧者が多く見られたことやウェブ公告掲載に効果があり今まで来館したことのない層に観覧してもらうことができたとあるが、年齢の低い層や初めての来館者層というのは、具体的にどのような状況であったか感想をお聞きしたい。
事務局	会期当初は三河地震に興味を持つ当館のリピーターの方が自身の勉強のために来館されていた。1 月の特に後半頃には災害関連の報道が増え、小学生とその親の来館者が増えた。指定管理者の行ったクイズラリー目当ての方もいたが、アンケート結果から初めての来館者が多かったことが分かった。ウェブ公告やテレビなどのメディアを見て名古屋市周辺などからの初めての来館者が増えたようだ。
委員	ウェブ広告としてどの様なものを出したのかを、具体的に教えてほしい。
指定管理者	1 月 1 日が能登半島地震から 1 年となることから年末年始に、あるいは阪神淡路大震災から 30 年となるためウェブで話題が上がってくることを見越し、安城市域から 30 km 程度の市域の 30 代から 50 代程度の男女をターゲットにした 12 月下旬から 1 月にかけてヤフー広告、フェイスブック、インスタグラムの広告掲載を週末中心に展開した。その結果 1 月 13 日以降から広告の閲覧数も上がり、アンケート結果からもインスタグラムやフェイスブックを見て来館した数が増加し、40 代の親子の層が増えた。
委員	そうするとウェブ広告は手応えがあったと感じていて、今後もウェブ広告を打っていく予定か。
指定管理者	展示のテーマによる。新聞の購読者層に相応しいテーマであれば新聞広告になる。今回はウェブに親しむ層と想定して成功した。その時々テーマとターゲットに合わせて選択していきたい。
委員	企画展「日本デンマークと呼ばれた時代」では広告の選択が難しそう。自分はインスタグラム、X は良く利用するが、例えば豊田市博物館は館長の個人の雑感のようなものがフォロワー数 1 万

	人を超えている。そのようなものを歴史博物館で出すのも良いかもしれない。講演会に来た講師の裏側の話などを出したりしてはどうか。常に土台となるフォロワーを作っておくと、NHK大河ドラマ「どうする家康」の様な盛りあがりがあった場合に、安城市について広く発信していくことができる。SNSなどの新たなメディアを使っていくのもひとつの手だと思う。 自分は特別展「地震と災難」は三河地震が中心だと思っていた。学校の授業作りのため、複数の博物館の展示を比較して見ることが良くある。外国籍の子どもに対して移民のことを考える場合に、横浜のJICAの後に、韓日資料館で日本に来た韓国人のパチンコ文化などの展示を見せたり、移民についてもいろいろな視点があり、それを示すのが博物館の役割。三河地震というテーマの中で地震をテーマにしたものがあるかと思ったら、今回同時期に開催されていた西尾市の三河地震の展示は、3分の2は地震とは何かの説明になっていた。新たな資料は本当になくて、後はピースあいちへ行ってくださいという構成だった。こういう並べ方もあるのかと好意的に受け止めたが、小さい子どもにも伝えたい内容なので、地震の怖さを伝えることも重要だと思う。 展示は時期を狙って実施しているので、情報をきちんと発信していることが重要と思う。日本デンマーク展も適切なタイミングを狙って発出していることが重要。安城市議会でも藤井松平家や、松平シンポジウムについて質問されていた。歴博が情報を発信し続けていたからこそ、それに気付いた人が今回質問されたと思うので、今後も是非続けていただきたい。
委員	特別展「地震と災難展」は、前半は多くの資料が並んで、後半は資料が少なかったのが気になった。前回の三河地震展で行ったインタビューなどで資料の掘り起こしはできていたので、そういった資料をどの様に活用して今回アピールできるのかを考えてもらいたかった。東南海地震、三河地震の知名度も少しずつ上がっている。歴博講座には多数の参加者があったので、三河地震に興味を持つ方はまだまだ多い。 国絵図展は、見にくいという感想もあった。学芸員は展示が始まれば良いという姿勢ではなく、期間中に様々な要望があれば応えていくことが大切なので、心掛けていただきたい。最前線にい

	る監視員から情報を得るなどして対応していただきたい。 豊田市博物館の館長は様々な場所で積極的にアピールをしているので多くのファンがついている。自分がいた館では、講演会や講座などは最後の 10 分は空けておき、聴講者と世間話でも良いので話をするように指導していた。講座などの時に親しみやすい人だと思われると学芸員も顔が売れていくので、心掛けていただくと SNS でも学芸員の顔が売れていくのではないかな。
委員	特別展「地震と災難」で、宝永地震は大阪まで情報が届いているのに驚いたし、当時の人がいろいろ伝えようとしてきたことも資料から良く分かった。最後は三河地震だが少し物足りなく感じた。歴博講座は 72 名が参加したとのことで、多くの人がもっと三河地震について知りたいと思っている。町内会等でも三河地震について残しておくために積み上げてきたものがあるので、学芸員が地域の中に入って行って、地域の人たちのものを取り上げるコーナーもあって欲しかった。 国絵図展は、国絵図の役割や作成過程や歴史が分かって良かったが、せっかくの立派な国絵図が生かされていない。国絵図を大きなスクリーンに映していただくなど、電子機器を利用して良く分かるようにしていただきたいかった。安城町を押すと当時の安城町が出てくるとか、矢作川の年代ごとの様子を映せるようにするなど、子どもたちにも興味を持てるように考えてほしい。今回限りの展示ではないと思うので、今後に期待したい。
委員	三河地震は 70 歳以下だとほとんどの人が知らない。安城の被害の写真がないのは、戦争中で写真が撮れなかったためと、私はガイドをする際には説明していた。地震の記念碑が藤井町や和泉町や城ヶ入町にはあるので、安城市の被害の様子を出してもらった方が分かり易かったのではないかな。 ふるさとガイド会員から、ケーブルテレビキャッチで展示史料借用の様子を放送していたと聞いた。博物館の裏側とか、展示までの準備の様子を PR していくことはとても良いと感じた。

委員	特別展「国絵図の世界」で、照明が暗いという意見があった。 令和５年度に資料の修復業者が資料を納品した時に展示方法を確認したところ展示傾斜は 30 度までだといわれた。だからどう見せるかの工夫が必要だった。数年前に私がタブレットを使ったらどうかと提案していた。少なくとも双眼鏡よりは気楽に使えたのではないか。最近はスマホでも資料が見られるが、画面が小さすぎるのでタブレットぐらいのサイズでないといけない。今回の展示でタブレットを使用することができないかった理由はあるのか。
事務局	資料に書かれた文字を詳しく見たいという要望がアンケートの中にあり大変申し訳なかった。画像自体は業者から納品されていたがタブレットで見せるなど展示の工夫まで準備ができなかった。デジタル機器を使った展示の見せ方が他館でも見られるようになってきている。常設展でも活用できると思われるので、今後はタブレット機器等を活用する方法を模索していきたい。
委員	今回はデジタル画像も同時納品されていたので、それを生かせなかったのは残念だった。
事務局	今後そういった機会を作っていきたい。本館は展示の見せ方はまだまだこれから改善していく必要があると感じているので、学芸員と相談しながら工夫をしていきたい。
委員	特別展「国絵図の世界」の会期中に開催されていた、安祥文化のさとまつりの時に子どもが双眼鏡を楽しそうに覗いていた。双眼鏡は子どもは興味を持っていたようだ。20 年位前までは江戸図屏風なども特定の博物館でないと超精細なデジタル化ができなかったが、最近はデジタル化して一般にネットで見られるようになっている。デジタル化して教材として使っていく場合もあるし、展示でもそれができると良いと思う。

(2) 令和 7 年度事業計画 (案)

事務局	【令和 7 年度事業計画 (案) について説明】
指定管理者	【令和 7 年度事業計画 (案) について説明】
会長	事務局の説明が終わりました。質問等がございましたらお願いします。

委員	12 月に行われた防災体験デーの参加者数は、期待した参加者数に対してどの程度だったか。予定した参加者数ぐらいだったか。
指定管理者	個々のイベントの積算ではあるが予定数ではあった。ただ、展示の観覧者数とはイコールにはならなかった。
委員	最近アンフォーレでも定期的に防災に関するイベントを行っているので、博物館の展示との連動をきちんと出していないと、安祥文化のさとで開催しているという認識につながらない。チラシは良かったが、防災と言うとアンフォーレという先入観ができてしまっている。配布する時期が大切だが、ある程度参加者が集まっていたならこの時期で適切だったかなと思う。夏休みイベントチラシについては、例年通りで良いと思う。 企画展「日本デンマークと呼ばれた時代」を小中学生の見学学習で観覧することになると思うが、今学校では「日本デンマーク」という言葉自体は小学校で触れるが、具体的なことには触れていない。郷土の偉人という部分で明治用水については触れるが、今は暗渠化していて子どもも存在に気が付かない。明治用水を作ったところまでを4年生の社会科で学ぶが、そこから先の時代につながらない。子どもたちの「日本デンマーク」についての認識についてはこの程度であることを理解して欲しい。歴史のひろば展に出展されるような自由研究ができる子どももいるが、全てがそうではない。明治用水が更生病院や日本デンマークにつながっていることは知らないのが今の学校の状況である。
委員	市外で生まれ育った方が増えているので、年代に限らず皆日本デンマークを知らない。市職員でも知らない人も多いと思う。そのような中で、どの年代をターゲットにするか、どこを切り取って展示するのかに興味もあるし、半分危惧もしている。
委員	本来、この前の議会での質問に対して回答するのは文化振興課ではなく、まち作りを考える部署だと思う。今度の日本デンマーク展でも、市の関係課はお客さん目線で見えていないか。 町内会単位などで説明して情報発信していくことが大切で、歴博側から連携を働きかけることも必要だと思う。
委員	数年前の新美南吉生誕 100 年の展示の時に関わったが、南吉は半田の人なのに皆熱心に取り組んでいた。日本デンマークは安城のまちのアイデンティティーだが、市の関係部署は他人事と捉え

	ているように思える。市役所の職員も、安城のまちの礎を知らないのは残念。
会長	それでは、協議事項については、よろしいでしょうか。 これをもちまして協議事項を終了いたします。ありがとうございました。
事務局	慎重審議、どうもありがとうございました。

3 その他

事務局	「3 その他」に移ります。最後に委員の皆さまから、何かございませんでしょうか。
委員	市役所庁舎が 50 年を経過して建て直す話があるが、歴史博物館は建て直すのではなく、再構想することも考えられる。本館や一宮などの先進事例があり、次に刈谷、豊田に建てられた。学校教育の立場で話をすると、次に安城の博物館に何が求められるのか。自然科学も含めて、市民ギャラリーもつなげながら博物館の在り方自体を考えた時に、歴史の博物館にはなっているが、次のステージを考える場合には、全体をつなげる構想を立てられると良い。ここの地域に人が集まるようなシステムを考える時に、学校教育関係が協力できる体制になっていると良いと思う。
委員	博物館が楽しくて面白いところで、子どもたちが歴史に対して興味を持ってくれると良い。自分が今いる地域がどのような歴史で今に至っているのかを知ることができ、これからどの様に進んでいくのかを博物館が示してもらえると嬉しい。安城市民の将来を担っているところが、歴史博物館だと思う。
委員	もうそろそろ常設展の展示方法を全面的に変えたらどうかと思う。開館当時は人類の発生から年代順に展示する方法が主流だった。当館に市外から来た人からは、家康や本證寺の展示が少ない、日本デンマークというなら明治用水ももっとやったらどうかと言われる。もう少し展示内容を今風にして、安城市らしさを出してもらいたいと思う。 また、企画行事にはファンもいるので、考え方によっては、もっと楽しい博物館になる。